



# ハイナイト祈禱課題 2024年9月号

## 1. イランのイスラエル攻撃を覚えて

8月は、世界の目がイランとイスラエルに向けられる緊張の1か月となりました。7月31日、ハマスの最高幹部イスマイル・ハニヤがテヘランで暗殺。イランの新大統領就任式のために訪問中だったハニヤが殺害されたことは、イランにとっては、国賓の暗殺を許したことになります。これをイスラエルの攻撃と見なしたイランは、激しくイスラエルを非難し、報復を宣言。また、ハニヤ暗殺の前日には、イスラエルは、ヒズボラの最高幹部フアド・シュクルを殺害しました。これは、ヒズボラの攻撃によって、イスラエル北部、ドルーズ族の町の子どもたち12人が殺害されたことへの報復としています。この2人の最高幹部の殺害を巡って、イランは、「イスラエルを厳しく罰する」と公言し、世界は、いつ、どのようにイランがイスラエルを攻撃するか注視してきました。しかし全面戦争を回避するための国際的圧力もあって、イランは、ハニヤ殺害後1か月たっても攻撃をせず、「報復のタイミングを長引かせるかもしれない」と言っています。これは、イスラエルの人々にとっては、「いつ攻撃が起こるのか分からない」という精神を消耗させる心理作戦にもなっています。

イランは、国是として、イスラエル殲滅を狙う国です。たとえ、今回の直接攻撃を踏みとどまろうとも、今後もイスラエルを執拗に狙い続けます。イスラエルを取り囲む各地域のテロ組織を通じて攻撃し、同時にイスラエル攻撃を念頭に核開発を進めています。

今月のメッセージで学んだ通り、イランがこれほどイスラエルを敵視するのはイスラム原理主義のイデオロギーのゆえです。イラン革命以来、イスラム原理主義政権となったイランは、世界のイスラム化を目指し、革命とテロを輸出する国とな



ハマスの最高幹部 ハニヤ (左) とヒズボラ最高幹部シュクル (右) の相次ぐ殺害でイラン・ヒズボラによるイスラエルへの報復攻撃の緊張が続く  
©Council.gov.ru, CC BY 4.0  
<https://www.bbc.com/news/articles/cldy0zpyq77o> Fair use

りました。彼らにとって、歴史上一度でもイスラムが支配した地を、イスラム以外が支配することは許されません。イスラエルの地には、7世紀以降イスラムが支配した時代があり、そこに、ユダヤ人国家が存在することは、絶対にあってはならないことなのです。

このイスラム政権の犠牲となっているのは、イラン国民です。政権への反対者は、拷問と処刑を伴う厳しい取り締まりを受けます。イランは、多額の資金を投じてテロ組織を軍事支援する一方、諸外国から経済制裁を受け、国民は貧困の中にあります。こうした中、イランは今世界で最も大きなリバイバルが起こっている国の一つとなりました。迫害の中、命懸けで信仰を守るクリスチャンたちが、イスラエルと心を共にしています。これまで、私たちは、イスラエルを攻撃するハマスの圧政で苦しむガザ市民のために祈ってきましたが、イラン政府の圧政で苦しむイラン人のためにも祈りが必要です。イランのクリスチャンのために祈りましょう。緊迫した状況の中で、主がイスラエルを守り続けてくださるよう。それと共に、イラン国民のためにも祈りの声を上げてまいりましょう。

光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。(ヨハネ1:5)

- ① イランが企てるイスラエルへの攻撃計画が頓挫し、イスラエルが守られるように。
- ② 長引く戦争の中で、イスラエルの国のリーダーたちに主の知恵が与えられるとともに、国民の心が守られるように。
- ③ イランの人々が主に会って暗闇から救い出されるように。迫害下の信仰者たちに主の力強い助けがあるように。

## 2. 日本が自然災害から守られるように

日本は自然災害が多い国です。地震、台風、豪雨、豪雪、火山噴火など、その種類も多岐にわたります。

特に地震大国と言われ、1996年～2005年の統計によると、全世界で起こったマグニチュー

ド6以上の地震の約20%が、日本で起こりました。

今年1月1日には、能登半島で最大震度7の地震が発生し、今も住民の生活に大きな影響を及ぼしています。8月8日には、日向灘を震源とする最大震度6弱の地震が発生。南海トラフ巨大地震への注意が呼び掛けられました。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、連動して富士山が噴火する危険性があります。1707年の宝永地震では、地震から49日後に富士山が噴火

しました。噴火は2週間も断続的に続き、江戸にも火山灰が降り積もったと言われています。さらに、「南海トラフ巨大地震の前後に首都直下地震が発生し得る」と、警鐘を鳴らす専門家もいます。

9月は、台風の影響を受けやすい月でもありません。自然災害の発生は避けられませんが、その被害を最小限に抑えられるよう祈り、備えてまいりましょう。

**主は すべてのわざわいからあなたを守り あなたのたましいを守られる。(詩篇121:7)**

- ①自然災害による被害を最小限に抑えられるよう、国、自治体、国民が備えていけるように。
- ②大災害に連動して他の災害が起こらないよう、主の守りがあるように。
- ③自然災害による被害を受けた地域が、一日も早く日常を取り戻せるように。

### 3. 北部国境の町キリヤット・シュモナへの支援を覚えて

キリヤット・シュモナは、レバノン国境近くに位置する人口約2万4千人の小さな町で、BFPが長年タウンサポートプログラムで支援している町の一つです。この町は、ヘルモン山を望む緑豊かな農業地帯であり、フラ渓谷の西側の斜面にあります。フラ渓谷は渡り鳥の通過地点としても知られ、推定5億羽もの鳥たちが毎年アフリカ、ヨーロッパ、アジアから飛んできます。

しかし、この美しい町は、レバノン国境から2kmの地点にあるため、長年にわたりテロ組織の攻撃対象となってきました。1974年の過ぎ越しの祭りには、PLO関連組織のテロリストが町に侵入し、子どもを含む18名が殺害される事件が発生しました。その後も、町は繰り返し攻撃を受け、昨年10月にハマスとの戦争が勃発すると、レバノンからヒズボラが大量のミサイルを発射し、町

はゴーストタウンと化しました。

7月30日にはヒズボラの最高幹部が、翌31日にはハマスの最高幹部が殺害され、特に北部の町々では、イランとヒズボラからの攻撃に対する緊張が高まっています。



「クリスチャンの友がいるから将来に希望を持てる」  
キリヤット・シュモナ市長 アビシャイさん(写真左)  
Photo by Michio Nagata/bridgesforpeace.com

映像はこちら ▶▶▶



<https://youtu.be/wybtJMvHLVk>



**彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。**

(イザヤ61:4)

- ①キリヤット・シュモナや北部の町々がヒズボラなどのテロ組織の攻撃から守られるように。
- ②戦争が長期化する中、8万人以上と言われる避難民となった北部住民の方々の心身と生活を主が守ってくださるよう。
- ③キリヤット・シュモナ再建のために世界中のクリスチャンからの祈りと支援が用いられるように。

「ハイレイトソング」▶▶▶

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」▶▶▶

祈りの第一声として  
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL:03-5969-9656 FAX:03-5969-9657 URL: [www.bfpj.org](http://www.bfpj.org)

ハイレイトに関するお問い合わせ:[chainight@bfpj.org](mailto:chainight@bfpj.org)